
記憶喪失

ひるね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶喪失

【コード】

NO101L

【作者名】

ひるね

【あらすじ】

ある医師のところへ、一人の男がやってきた。聞くと、その男は自分の名前も思い出せないとのことなのだ。。

診察室に入ってきたのは、どこか虚ろな目をした男だった。危なっかしい足取りで椅子に腰掛けると、彼は深くうなだれた。

「今日は、どうしましたか？」

医師が問うと、男は片手を額に当てて、ゆるく首を振った。

「黙っていてはわかりませんよ。どこか具合が悪いのでしょうか？」

えーと……おや、問診票に名前が書いてありませんね」

「わからないのです」

男はぼそりと呟いた。

「わからないとは、どう具合が悪いのかがわからないということですか？」

「違います。何もわからないのです。自分の名前も、何もかもです」

男はポケットから一枚の紙切れを出して医師に見せた。

「ここに来たのは、唯一持っていたこの紙にあなたの名前が書いてあったからです。先生は私について何かご存じなのではないですか？」

「……確かに、あなたは以前にもここを訪ねていらつしやいました。私は先日、人の記憶をすっかり消してしまう薬を発明しました。それを聞きつけてきたのでしよう。私はそれを使って、ご希望どおりあなたの記憶を消したというわけです」

「その、消した記憶を取り戻す方法はないのですか？」

「ええ、もちろん、そういった薬も一緒に発明してありますよ。しかしなんですか、果たして記憶を戻していいものかどうか、私には判断がつきかねますよ。何か、たいそうつらい思いをされたようにお見受けしましたからね」

「いいえ先生、つらい記憶を消してしまおうとするなど間違っていました。記憶がなければ、私は何もできません。頼れる家族や友人がいるかもわからず、働こうにも履歴書も書けません。どんなに辛いことがあっても、記憶を捨ててはいけなかったんです」

「わかりました。そこまでおっしゃるのなら、記憶を取り戻す薬を処方しましょう。その薬を飲んで三日ばかり経てば、記憶はすべて元通りになりますよ」

男は礼を言つて診察室を出ていった。

医師が次の患者を呼ぶと、虚ろな目をした女が入ってきた。危なっかしい足取りで椅子に腰掛けると、彼女は深くうなだれた。

「今日は、どうしましたか？」

医師が問うと、女は決意したように顔を上げた。

「先生、私の記憶を消してください」

「しかし、あなたは先日、ご自身の希望で記憶を戻したのではありませんでしたかな」

「ええ、そのとおりです。でも、それは間違っていました。あんなつらいことを覚えたまま生きていくなんで、とてもできません。一度すべてを忘れてやり直すより他にないのです。どうか先生、お願いします」

「わかりました。そこまでおっしゃるのなら、記憶を消す薬を処方しましょう。その薬を飲んで三日ばかり経てば、記憶はすっかり消えてしまいますよ。ああ、もしものときのためにこれをお持ちになってください。私の連絡先のメモです」

女は礼を言つて診察室を出ていった。

医師が次の患者を呼ぶと、虚ろな目をした老婆が入ってきた。

一日の診療を終えると、医師は深くため息をついた。

「あいつらときたら、記憶があつたらあつたでつらい、なければないでつらいというのだからな。ずいぶんと勝手なものだ。しかし、ああいう連中のおかげで俺が食いつぶされることは一生ないのだから、ありがたく思うべきか。まったく、ぼろい商売だ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0101/>

記憶喪失

2010年11月24日08時48分発行